

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	技術経営 I
科目基礎情報					
科目番号	0083		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	材料工学科		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	参考書: 加護野忠男・吉村典久『1からの経営学 (第2版)』碩学舎, 2012. 藤田誠『経営学入門』中央経済社, 2015. 阿部隆夫『若手エンジニアのための技術経営論入門』森北出版, 2009. その他授業中適宜指示する.				
担当教員	松岡 信之				
目的・到達目標					
1. 自己が主体的に参画していく社会について経営学の理論的枠組みを理解して説明できる. 2. 企業の組織形態や生産・マーケティング戦略や財務などを経営学の視点から理解できる. 3. 日本型経営や企業の管理システムなど現代社会における企業の特質や課題に関して自らの言葉で論述できる.					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	自己が主体的に参画していく社会について経営学の理論的枠組みを深く理解して説明できる.	自己が主体的に参画していく社会について経営学の理論的枠組みを理解して説明できる.	自己が主体的に参画していく社会について経営学の理論的枠組みを理解して説明できない.		
評価項目2	企業の組織形態や生産・マーケティング戦略や財務などを経営学の視点から深く理解できる.	企業の組織形態や生産・マーケティング戦略や財務などを経営学の視点から理解できる.	企業の組織形態や生産・マーケティング戦略や財務などを経営学の視点から理解できない.		
評価項目3	日本型経営や企業の管理システムなど現代社会における企業の特質や課題に関する資料を書籍やインターネット等により適切に収集してその成果をよく説明できる.	日本型経営や企業の管理システムなど現代社会における企業の特質や課題に関する資料を書籍やインターネット等により適切に収集してその成果を説明できる.	日本型経営や企業の管理システムなど現代社会における企業の特質や課題に関する資料を書籍やインターネット等により適切に収集してその成果を説明できない.		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	本講義のねらいは自らの技術を活用できるような起業と経営の実践的なアイデアを形成することである. 講義の主な内容は経営学の基礎的な知識を習得して技術を生かせるような経営の手法について学ぶことである. 授業内容に関するニュースや書籍など紹介して知識を深める.				
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての内容は学習・教育目標(A)&lt;視野&gt;とJABEE基準1.1(a)(b)に対応する.</li> <li>・授業は前半部分を講義形式で行う. 講義中は集中して聴講する.</li> <li>・授業は後半部分をディスカッションや発表形式で行う. 自らの考えを積極的に述べる.</li> <li>・「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする.</li> </ul>				
注意点	<到達目標の評価方法と基準>下記授業計画の「到達目標」を網羅した中間試験と期末試験の点数と、授業への参加、発表を総合的に評価する. <学業成績の評価方法および評価基準>中間試験と期末試験結果の平均値、授業中の発表や参加度の評価点を成績とする. 試験60%,発表40%として、60点に達しない者には再試験を行う. 再試験の結果が60点を上回った場合には、その成績を60点として置き換える. <単位修得要件>学業成績で60点以上を取得すること. <あらかじめ要求される基礎知識の範囲>特になし. <備考>授業の進め方は以下の通りとし、講義を行ったあとにディスカッションや発表を行うことで理解を深める. パワーポイントを用いた講義 (40分) ,個人あるいはグループによる研究・議論 (20分) ,個人あるいはグループによる発表・討論 (30分) . 後期開講の「技術経営Ⅱ」も併せて履修することでより深く理解できる.				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	イントロダクション、経営学とは何か	1. 経営学の位置づけから、企業経営の概略を理解する。	
		2週	組織の行動	2. モチベーションやリーダーシップについて理解できる。	
		3週	経営組織	3. 会社組織の機能について理解できる。	
		4週	経営戦略	4. 企業における戦略について理解できる。	
		5週	マーケティング	5. マーケティングの機能と意義について理解できる。	
		6週	生産管理	6. 技術革新と製品生産の関係について理解できる。	
		7週	人事労務管理	7. 働き方や労働組合、労使関係について理解できる。	
		8週	中間試験	1～7. これまでの学習内容を理解し、自ら記述できる。	
	2ndQ	9週	試験の解説、情報経営	8. テクノ・グローカリゼーションのもとでの変化について理解できる。	
		10週	マネジメント・コントロール	9. 上位マネージャーと下位マネージャーの関係と役割分業について理解できる。	
		11週	経営理念と経営原理①	10. コーポレート・ガバナンスについて理解できる。	
		12週	経営理念と経営原理①	11. 経営理念と経営原理の重要性について理解できる。	
		13週	労働者の権利と労使関係	12. 労働法について理解できる。	
		14週	中小企業とベンチャー	13. 中小企業やベンチャー・ビジネスの役割と重要性について理解できる。	
		15週	企業の国際化	14. グローバル化や多国籍企業の展開について理解できる。	

		16週					
評価割合							
	試験	課題	小テスト	態度	発表	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
配点	60	0	0	0	40	0	100